

3つの会合に出席した報告

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今日は3つの会合のお話をします。1つ目は私が入っている東京の経済同友会に「学校と企業、経営者の交流活動の推進委員会」があり、私はその推進委員会の委員になっています。活動の一環として9月27日・月曜日に東京都墨田区の錦糸町中学校に行き授業をしました。全部で9名の立派な経営者が行き、自分の仕事のことや自分の中学校時代のことを話しました。子供達の生きる力をつけようという試みです。3年前から行われていて今回は3回目でした。私は2年2組を担当しました。生徒達と給食を食べた後、50分の授業で私が話したのは主にこの栃木放送で話させていただいているような内容です。どのようにしたら勉強ができるようになるのかについて、やはり集中力が大事であること、また自分が犯罪者、被害者にならないように気を付けようなど、色々な事について話しました。終わった後に生徒さんから感想文が届きました。参考になったなど、とても良い反応で、私としてもありがたい体験ができました。また他の8名の経営者の方の話も非常に良かったということで、来年も来て欲しいという嬉しいお言葉をいただきました。栃木県の小中高の学校でも1年に1度くらい企業経営者や企業、一般社会で活躍している方などのお話を組み入れていくことによって、子供達は何のために勉強するのかの動機付けがうまくできると思います。栃木県でも是非行っていただきたいと思います。2つ目は、9月の29日・水曜日に、東京の経済同友会の「教育の将来ビジョンを考える委員会」で元文部大臣の遠山敦子先生をお招きして、2時間ほどお話をお聴きしました。私は普段思っている事などを質問して非常に有意義な時間を過ごすことができました。遠山さんは遠山改革という、日本の戦後、文部省で一番大きな改革の先例を切った人で民間にできることは民間に、地方にできることは地方にという、かけ声の下にできるだけ各都道府県や市町村の教育委員会を主体とした教育をすることが良いとの考えで色々な改革を出されました。

私は、遠山先生がこれから先、先生の養成をしっかりとやるとおっしゃった内容に先生の養成の中に大学院の修士課程を取った人に免許状を与える、10年に1回、免許の更新を行うことがあったので、もしできれば大学院に教え方、つまり教授法の専門の大学院をつくってほしい、10年ごとに免許の更新をするのであれば単位制を設け、学校の先生にもう1度教え方の勉強をしていただく。それを免許更新の条件にする。さらに全国に100万人以上いる小・中・高の先生に教授法の専門の大学院に入り直してもらい、教える技術を磨いて欲しい。このようなお願いをしました。教員養成課程で、教授法の指導がなされていないのが、日本の現状です。ヨーロッパやアメリカの教員養成課程の大学院では教え方の専門家を養成しますが、日本では教える内容を指導します。そして大学院の専攻科でも、また教える内容を研究しています。これでは本末転倒ですから、教授法を教えて欲しいと提案しましたら、賛同して下さり、文科省で議論してみるとの回答を得られ、心強く思いました。

3つ目は早稲田大学元総長の奥島たかやす先生にお会いして、子供達は大学に入るまでにどのような勉強をしたらよいかと、質問させていただきました。これからはAO入試が増えてくるので、自信を持

ち楽しく高校時代を過ごし自分の勉強、人を早稲田大学は望んでいるという答えをいただきました。今日は3つの会合に出席した報告をさせていただきました。